

# 福井の I T O M O の 多様な技術力を発信



11社が開発素材などを出展

福井県繊維協会傘下の若手有志によるグループ I T O M O (イトモ、八田嘉一郎会長) は、大阪市内でテキスタイル展を開いた。同展は関西ファッション連合 (K a n f a) との連携で実施し、今回で3回目。産元商社や織布メーカー、ニットなど11社が新規開発素材や欧州展での人気素材などを出展し、多様な技術力を発信した。

市場に天然回帰の流れが強まるなか、各社の提案は、改めて合織の強みを打ち出したものが目立った。特に機能性では、「コートやスカート向けに、P T T (ポリトリメチレンテレフタレート) 繊維『ソロテックス』を使って発色性と形状安定性を高めた。」

素材感では「ウーリー糸を巻いたポリエステル」(広燃)をはじめ、梳毛調の糸や糸加工、後加工の変化による天然繊維調の表情が拡大。シャギーでは「ポリエステル・綿のトリコット」(澤村北陸支店) など布帛風の表現も増えている。

また、「タンブラー加工でソフトに仕上げたキュプラ・ポリエステル」(熊澤商事) や「ダブルラッセルをセンターカットした極薄のポリエステルペロア」(八田経編) など独自の風合い開発も進んでいる。

同グループは、来年3月2日に大阪での第4回展の開催も決めており、「継続的な展示会の実施による産地の認知度向上を重視する」(八田会長) としている。

## 福井産地の I T O M O K a n f a 向けに生地提案

### 新規開拓も徐々に進展

福井県繊維協会傘下の1日、大阪市内で関西ファッション連合 (K a n f a) に所属するアパレル (八田嘉一郎会長) 八田や生地商社に向けた展示会を開いた。同展は今回が3回目。20



関西のアパレルや生地商社が来場

「糸と共に生きる」をテーマに11社が、糸からこだわった自慢の開発生地を披露した。

八田経編は、シック&シン糸を使って染めムラを表現したセンターカットダブルラッセルや、割織糸と「ソロテックス」使いのスエード調素材などを、実際に店頭に並ぶ

製品と共に訴求した。

広燃は、9月に開催したパリの「ブルミエール・ウィジョン」でも人気の高かったポリエステル・ナイロン割織糸使用のハイゲージ天竺や、ポリエステル・綿の布帛調トリコットなどを提案した。

エンプロイダリーとして約2万点の柄データをもつ2万点の柄データによる過去2回の同展への出展で幾つかの新規顧客を開拓に成功したという。「実成約はなし」と言う出展者もいるが、全体としては生地商社を中心に顧客開拓が進展している。I T O M O 事務局によると、「最低でも3年は開催を続ける」として、今後も年に2回のペースで同展を開いていく。

I T O M O は福井県の繊維産業の復興を目標とした若手有志団体。燃糸織り、編み、レース、染色加工、産元と業種は多岐にわたり、現在は36社・45人が会員として名を連ねている。